



町の話題



「もったいない」の思い 引き継ぎます 千屋小学校で「マータイさんありがとう集会」

10月3日に千屋小学校で、9月に亡くなったノーベル平和賞受賞者のワンガリ・マータイさんを追悼する集会が開かれました。マータイさんは、平成19年にNPO法人などが主催する「MOTTAINAIキッズ植林プロジェクト」の一環で同校を訪れていました。会では、同NPOの伊藤恵里子さんからマータイさんの活動や自然を大切にしていた思いを聞き、「マータイさんの思いを引き継いでいこう」と誓い合いました。また、当時マータイさんと一緒に植えた赤松に花束を手向け、黙とうを捧げました。

プロが作った料理に舌鼓 秋田県調理師会が後三年鴻声の里を慰問

10月11日に秋田県調理師会大秋会県南支部（赤川忠勝支部長）が後三年鴻声の里を訪れ、利用者の皆さんに握り寿司などを振る舞いました。平成7年から行われ、今年で17回目を迎えるこの活動。利用者の皆さんは毎年この時期を楽しみにしているようで、佐藤仁志施設長は「また来年もぜひ来ていただければ」と話していました。



■一般の部優勝の田中恵さん

民謡愛好家が自慢ののどを披露 第21回民謡「長者の山」全国大会

10月8日と9日の両日、美郷町北体育館で第21回長者の山全国大会が開催されました。今年は県内外から、熟年の部に57名、一般の部に94名、ジュニアの部に34名が参加。秋田県仙北地方発祥の民謡「長者の山」を思い思いに歌い上げ、日頃の鍛錬の成果を披露しました。各部門の上位入賞者は次のとおりです。（敬称略）

一般の部	優勝	田中 恵(秋田市)	ジュニアの部	最優秀賞	高橋真理香(男鹿市)
	準優勝	浅野 晴香(秋田市)		優秀賞	高橋愛実香(男鹿市)
	第3位	沢田 藍(福島県南相馬市)		優秀賞	菅原 桃香(男鹿市)
熟年の部	優勝	大淵 ツセ(能代市)			
	準優勝	佐藤 修三(八郎潟町)			
	第3位	柏田 和江(岩手県矢巾町)			

寄り添って50年 おふたりの歩みをお祝い 金婚をお祝いする会

10月21日に美郷町公民館で「金婚をお祝いする会」が開かれ、昭和36年に婚姻届を提出したご夫婦29組が出席しました。会では、町内のコーラスグループによるお祝いの歌に続いて松田町長があいさつし、「多少の口げんかを経験しながら一緒に人生を歩んでこられたみなさん。これからも伴侶と共にひとつの道を一緒に歩み続けるように頑張ってくださいと思います」とご夫婦のこれまでの歩みに敬意を表しました。引き続き、出席者一組一組に讃詞と記念品を手渡し、人生の節目を祝いました。



戦没者の冥福を祈り、恒久平和を誓う 美郷町戦没者追悼式

10月22日に秋田諏訪宮で美郷町戦没者追悼式（町遺族会主催）が行われ、会員や松田町長、高橋町議会議長ら約100名が参列しました。式では、戦没者に黙とうを捧げた後、熊谷良夫会長が「戦争のない平和な世の中を実現するため、一層努力していくことを誓います」と式辞を述べました。また、各地区の遺族会代表者が祭壇に玉串を供え、戦没者の冥福を祈りました。

多彩な演目で観衆を魅了 美郷町芸術文化協会 芸能発表会

10月23日に美郷町公民館で美郷町芸術文化協会（高橋進会長）の芸能発表会が行われました。同協会に加盟する24団体、約190名が民謡や舞踊、太極拳、ジャズなどを披露し、日ごろの練習の成果を発表しました。

会場を訪れた約400名の観衆は、ステージ上で次々と繰り広げられる多彩な演目に、盛んに拍手を送りました。



東京都西荻窪の某所にある食堂風居酒屋。そこには懐かしいロックの曲が流れていました。先般、東京でIT企業を経営している高校時代の同級生に誘われ、後をトコトコついて行った所がそこでした。そして、なんとその店長は高校の同期生。懐かしい曲が流れているはずですが、同じ時代を生きてきたわけですから、さらに驚きはそれだけでは



▲「友好都市ふれあいひろば」で美郷町をPRする松田町長

風

「想いを形に」

美郷町長 松田 知己

ありませんでした。店の入口で私を迎えたのはナマハゲ。そして飲み物は秋田のお酒にニテコサイダー。食べ物ばかりたんぽに横手やきそばなどなど。店長は横手生まれの横手育ちですが、まさに秋田の匂いを店内に振りまいていました。居心地が良かったのは言うまでもありませんが、何より私が嬉しかったのは、誰に頼まれてやっている訳ではなく同期生自らが故郷を前面に出して事業展開している、その気持ちでした。

そしてつい先日、またまた嬉しい気持ちに包まれました。県内紙にも記事が掲載されましたが、六郷地区に在住する栗林聡子さんが作った曲「七色の雫」。CDで歌を聴かせてもらいましたが、澄んだ声に優しいメロディー、そして栗林さんの故郷を想う心が伝わる非常に心地よい歌で

した。聞くところによると、栗林さんはいろいろな大会で実績を残してきた方とか。「道理で」です。みなさんも機会を見つけて聞いてみてください。想いを共有できますから…。

言うまでもなく「地域の活性化」は、行政や特定の人がんばれば良い問題ではありません。故郷に想いを持つみなさんが、内外においてそれぞれ出来ることを自然体で実践し、それを合わせることで実現していくものだろうと思います。その意味で今回の話題には力が湧いてきました。きつこうした実践例はまだまだあるはず。どんどん情報発信し、盛り上げてもらいたいと思います。

そして美郷町、今月で満7歳です。今後のさらなる活性化を期して、今月23日、各界で活躍されている美郷大使の方々の対談を実施します。きつとみなさんの故郷への想いを形にするヒントがあります。ご参加、心からお待ちしております。